令和4年産

大豆栽培こよみ

令和4年2月作成

柳川農業協同組合
南筑後普及指導センター

時期	月	6			7			8			9			10			11		
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業		適地の選定	土壌改良	播種前除草 種子の準備	施肥 耕起・整地	除草剤散布 耕起・は種		中耕・培土	追肥	害虫防除	害虫防除	病害虫防除	害虫防除				青立株抜取り	成熟期	収穫 乾燥 調製

作業内容

水系別に集団化を図る。

種子消毒（ハト害・紫斑病）**種子消毒基準参照**

排水溝設置　周囲にやや深い排水溝を設け落水口へつなぐ。

地力増強　麦ワラすき込み。アヅミン、土力の素
PHの矯正　目標PH6.0～6.5　炭酸苦土石灰、ミネラルG

施肥基準参照　PK化成の散布を行う。

雑草防除基準参照

は種時期と栽植密度参照

本葉2枚から4枚頃までに行う。

8月10日頃までに必ず一回は実施する（倒伏防止と雑草対策）。
アサガオ・ホオズキを手作業で取り除く
ガードベイトAを10a当たり3kg株元散布を行う。
ネキリムシ　生育初期までに大豆地際部の土壌表面に

生育不良の場合は開花期までにNK化成2号を10kg／10a施用する

白変葉が目立ってきたら薬剤による一斉防除を行う。

ハスモンヨトウのふ化幼虫が群生している白変葉を早めに手取りで除去する。

※ハスモンヨトウの多発年は、液剤による徹底防除を行う。
紫斑病
カメムシ
ハスモンヨトウ　の薬剤防除（三種混合）

カメムシの薬剤防除（補正）

アサガオ

※ホオズキ

※ホソアオゲイトウ

※出展：福岡県病害虫防除所

ハスモンヨトウ
※幼虫（6齢）

※成虫

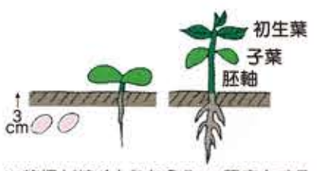
ミナミアオカムシ

青立ち大豆や雑草は刈取前に抜き取る。

成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に乾燥した時期

刈取適期は成熟期の7日後から（子実水分16%以下）

播種・出芽期



※乾燥が続くようなら5cm程度とする

中耕・培土

ハスモンヨトウの生育

〈防除適期〉葉のうらまで確認して下さい。

※防除の適期は、成虫の発生ピーク後10～14日。（若令～中令の幼虫を対象に防除を！）

■品種特性表（7月10日播）

品種名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り子実重	百粒重
フクユタカ	8月19日	11月3日	中	339kg	30.9g

■種子消毒基準

薬剤名	処理方法	処理量	備考
キヒゲンR-2フロアブル	塗沫	種子10kgに200ml	ハト害、紫斑病
クルーザーMAXX	塗沫	種子10kgに80ml	ハト害、紫斑病 ネキリムシ、アブラムシ

■施肥基準

（kg／10a）

大豆作付条件	肥料名	基肥	成分量			遅播は ちくごのめぐみ444 を使用する
			窒素	りん酸	カリ	
一般	PK化成40号	30		6.0	6.0	
遅播等	ちくごのめぐみ444	15	2.1	2.1	2.1	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意します。
※生育不良の場合は開花期までにNK2号を10a当り10kg施用します。

■は種時期と栽植密度

品種名	フクユタカ（1株当り2粒）	
播種期	7月1日～20日（適期播）	7月21日～（遅播）
条間（cm）	65	
株間（cm）	30～20	15～10
10a当り播種量（kg）	3～5	6～9

※適期の範囲内でなるべく早く播種します。
※異品種混入防止の為、圃場には一品種の作付けとします。

■土づくり

施用	資材、方法	施用量（kg/10a）	備考
有機物の施用	麦ワラすき込み	全量	播種作業に支障がないようワラは短く切る
	アヅミン	40	保肥力を高める腐植酸が主成分
土壌改良材の施用	炭酸苦土石灰	160～200	酸性障害対策、大豆に必要なカルシウムを含む
	消石灰		
	ミネラルG	160～200	酸性障害対策、カルシウムのほかケイ酸も含む
	土力の素	45	保肥力を高める腐植酸のほかケイ酸加里を含む

＜有機物の施用＞収量向上には地力の増強が必要です。
＜土壌改良材の施用＞大豆は酸性に弱い作物です。大豆栽培に適した土壌条件：pH6.0～6.5

安全と信頼は生産者のチェックから!! STOP異物混入

	紫斑病・褐斑粒	皮切れ・剥皮粒	汚損粒（泥汚れ等）
被害粒			
発生原因	・前年産の罹病茎葉 ・罹病種子の使用 ・適期防除の不徹底	・収穫時期の遅れ（過乾燥）	・降雨直後および朝露後に収穫 ・雑草、青立ち株の混入 ・コンバインの刈り取り位置が低い（土のかき込み）
防止策	・種子更新100% ・種子消毒の徹底 ・適期防除	・適正な子実水分での収穫作業 子実水分：18%以下 収穫開始：茎水分50%以下 収穫時間：茎水分の高い朝夕を避ける 午前10時～午後5時まで	・降雨直後や朝露発生時の収穫を避ける ・収穫前の雑草、青立ち株の抜き取り ・コンバイン収穫時の刈り取り位置に注意

＊安定多収は土づくりと適期防除から　＊農薬購入の際は、印鑑が必要です。
＊一工程播種で適期播種を目指しましょう。

■雑草防除基準

使用時期		除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点
耕起前		ラウンドアップマックスロード	200～500ml	50～100ℓ	播種前雑草が多い場合
		バスタ液剤	300～500ml	100～150ℓ	一年生雑草（イネ科・広葉）対策
播種後～出芽前まで		ラクサー乳剤	400～800ml	100ℓ	土塊はできるだけ砕き、覆土は2～3cmとする。ほ場が乾燥している場合は希釈水量を多くする。
		プロールプラス乳剤	400～600ml	70～150ℓ	
		ラクサー粒剤	4～8kg	―	覆土は2～3cmとし、よく整地して鎮圧する。二重散布にならないように均一に散布する。
生育期	全面散布	ボルトフロアブル	200～300ml	100ℓ	イネ科雑草（3～10葉期）但し、収穫30日前まで
		パワーガイザー液剤	200～300ml	100ℓ	広葉雑草（アサガオ類）対策（大豆出芽直前～3葉期）雑草茎葉散布、又は全面土壌散布
		大豆バサグラン液剤	100～150ml	100ℓ	広葉雑草対策（大豆2葉期から開花前）但し、収穫45日前まで
		アタックショット乳剤	30～50ml	100ℓ	広葉雑草対策（本葉2葉期～開花前）但し、収穫45日前まで散布により大豆に褐変、白化などの薬害が生じることがある。使用には、使用確認書の提出が必要である。
	畦間処理	バスタ液剤	300～500ml	100～150ℓ	広葉雑草対策（大豆にかからないように散布する）但し、収穫28日前まで

※周辺の作物に飛散しないように注意　※中耕、培土による耕種的防除も併せて行います。

■病害虫防除基準

	時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用液量	使用回数	備考
液剤	8月上中旬	ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤　又は	2,000倍	100ℓ	2回以内	脱皮阻害剤
			プレオフロアブル	1,000～2,000倍			オオタバコガには1,000倍
	8月下旬～9月中旬	ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4,000倍	100ℓ	2回以内	
		カメムシ・マメシンクイガ	スミチオン乳剤	1,000倍	100ℓ	4回以内	アブラムシ・マメハンミョウ
		紫斑病	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	100ℓ	4回以内	
	10月上旬	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	100ℓ	2回以内	補正

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底します

①大豆を栽培するほ場の周辺に作付けされる農作物の状況を確認し、防除日程等の連絡を徹底します。
②ブームスプレーヤー（乗用管理機）や動力噴霧機で防除を行う場合は、ドリフト低減ノズルを使用するなどして、農薬の飛散を未然に防ぎます。

令和4年大豆栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
フクユタカ		土づくり		種子消毒			中耕・培土			病害虫防除						収穫		
		／～日		／～日			／～日			／～日						／～日		
				基肥			中耕・培土											
				／～日			／～日											
				雑草防除			病害虫防除											
							／～日											
a				播種														
				／～日														

＊安定多収は土づくりと適期防除から　＊農薬購入の際は、印鑑が必要です。
＊一工程播種で適期播種を目指しましょう。

＊農薬は保管庫等でしっかり管理しましょう!
＊農薬のラベルをしっかり確認して散布しましょう!